



発行所

一般社団法人 全日本木材市場連盟
編集・発行人 東京都区文 112-0004
電話 03(3818)2906
FAX 03(3818)2907
毎月1回1日発行
定価・年3,000円
(会費は会費に含まれています。)

中小企業庁 関連予算

円安による原材料やエネルギーコスト高などの影響を受ける中小企業・小規模事業者に対する支援策を講ずるとともに、小規模企業振興法の制定を踏まえた小規模事業者施策の抜本的強化や、地域経済の活性化に焦点を当てた施策の展開を図ることとし、27年度当初予算1,856億円、26年度補正3,013億円を計上している。

- ①ふるさと名物応援事業 27年度当初16億円(26年度補正40億円)
地域資源を活用した「ふるさと名物」などの新商品・サービスの開発支援や、人材の育成などの取組を支援。
- ②中小企業・小規模事業者人材対策事業 27年度当初10億円(26年度補正60億円)
地域内外の多様な人材から事業者が必要とする人材を発掘し、紹介・定着するまでを一貫支援。複数事業者間での出向等を通じた人材育成、ものづくり現場における中核人材やカイゼン指導者育成も指導。
- 中小企業・小規模事業者のイノベーション推進

①革新的なものづくり産業創出連携促進事業 27年度当初12.9億円
中小企業が大学・公設試等の研究機関等と連携して行う技術開発を支援。

②ものづくり・商業・サービス革新事業(26年度補正1,020億円)
革新的な設備投資やサービス開発・試作品の開発を支援。共同体で行う設備投資等を支援対象に追加。

第42回JAS製材品普及推進展示会 四社に農林水産大臣賞

42回JAS製材品普及推進展示会の表彰式・記念講演会を開催した。出席は、服部順昭審査委員長(日本木材加工技術協会会長)、吉条良明全木連会長、市川英治全市連会長ほか三団体の役員、受賞関係者など。

また、来賓として、農林水産省相本浩志表示・規格課長、同中能課長補佐、林野庁木材産業課の小島孝文(こじまたかふみ)課長、農林水産消費安全技術センター、農林水産漁業振興会等の関係者多数のご出席を頂いた。
全木連の吉条会長は、主催三団体を代表し挨拶、「本年度の展示会に、ご協力

を頂き、深く感謝申し上げる」等と謝意を述べた。

【審査結果の講評】

服部委員長より、次のとおり審査の報告を頂いた。昨年の8月から11月まで6会場(社)全国木材組合連合会、(社)全日本木材市場連名、(社)全国木材市売買方組合連名の主催により、第42回JAS製材品普及推進展示会における出品製品の審査を行ってきました。今年度の出品工場数は87(昨年度61)で、出品数が多い会場が入ったことで、前年度より26工場増えました。出品量は前年度より12㎡多い、962㎡でした。

審査結果は、100点満点が19工場(13)と昨年度より約5割増えました。規格は完璧に満たしていましたが、JAS格付実績と出荷実績で減点された工場が満点工場と同じ数になる19もあり、全体では出品数の44%がJAS規格を満たしていたことになりました。

別の観点から見ると、実績を上げなければ、受賞は難しくなると言う段階に入り始めたこととなります。何れにしても、JASマークを付けて出荷している訳です。全木連の製品が満点と評価されるよう、各工場におかれましては引き続きJAS規格を満たした製品の生産に努めていただきたいと思います。本審査は減点方式で行われますが、その原因で目立ったものは、格下げと格上げ、乾燥不足、表示ミスでした。総合調整審査の結果、農林水産大臣賞4点、消費・安全局長賞12件、林野庁長官賞16点を決定し、推薦しました。天皇杯は1回切りという慣例があることから、主催3団体の会長

特別賞6件を選考しました。主催3団体の会長賞30件も審査の申し合わせに従い選考しました。優良市場さんと優良買方さんについても申し合わせに従い感謝状を贈呈することとしました。

今後の課題ですが、折角製品に大臣賞などが授与されても、その荣誉が買方からエンドユーザに伝わらないことから、伝わる仕組みを検討してもらおうよう消費・安全局の担当者にお願いしました。もし、この仕組みが出来て、価格に反映されれば、JASの普及に弾みが付く可能性が出てくると思います。

【表彰】

相本課長に農林水産大臣賞と消費・安全局長賞を贈呈して頂き、小島課長に林野庁長官賞の贈呈をしていただいた。

また主催団体賞は、吉条会長が贈呈し、優良開催市場への感謝状は、市川会長が贈呈した。(詳細は、別掲のとおり)

【来賓祝辞】

相本課長は、受章者への祝意と三団体への謝意を述べるとともに、林産物のJAS製材規格の見直しについて、次の通り語った。「枠組構造用製材等のJAS規格についてもこれまで国産材利用が少なかつた2×4材の分野で、スキ、ヒノキ、カラマツなどの利用促進につながることを期待している。3月改正公示の予定。集成材、LVL等についても検討に入っている。需要者のニーズに応えたJASを目指す。引き続き、JAS制度の適正な推進とJAS材の安定供給にご協力頂きたい」。

続いて、小島木材産業課長は、「受賞者への祝辞、JAS製品の普及に対する



服部審査委員長

三団体への感謝を述べた後、国内の人工林は利用期を迎え、林業の成長産業化、地方創生に大きな期待が寄せられている。そのためには、国産材の安定供給と需要拡大が重要であるが、今後、住宅は大きく伸びてゆくとは考えられず、住宅以外の需要を伸ばしてゆくことが重要。公共建築物等木造化を進めるとともに、CLT、耐火集成材等の技術開発・普及により、中高層建築物等についても、木造化、木質化を進めてゆく。東京オリンピック・パラリンピック開催は、木材利用を知っていただく機会。業界にも是非応援をお願いしたい。住宅、中大型建築物において木材を利用して頂くためには、品質の確かな製品が不可欠で、JASの役割は大きく、普及に努めて頂きたい。」と語った。

このあと、受章者を代表して、大林産業株式会社の大林真信社長が謝辞を述べ、表彰式を終えた。



農林水産大臣賞表彰

【農林水産大臣賞】() は都県名

- 大林産業(株)(山口)、中国木材(株)鹿島工場(茨城)、ウッドリンク(株)(富山)、ウッドピア流通検査(協)(三重)
- 【消費・安全局長】 牧野木材工業(株)、小林製材(株)、鈴鹿製材所(以上、岡山)、伊藤林産(有)、倉地製材所、飛騨高山森林組合(以上、岐阜)、越井木材工業(株)本社工場(大阪)、共力(株)(福島)、グリーンウッドタクミ(協)、小牧木材(株)(以上、三重)、エンジニアウッド宮崎事業(協)(宮崎)、(株)松島木材センター(熊本)
- 【林野庁長官】 杏澤製材所(秋田)、(株)山長商店(和歌山)、宮内林業(株)、都城木材(株)(以上、宮崎)、山下木材(株)、丸左木材(以上、岡山)、東濃ひのき製品流通(協)、(有)森製材所、(株)丸七ヒタ川ウッド、交告製材(株)(以上、岐阜)、(株)瓜守材木店(愛媛)、齋藤木材(有)、宮川森林組合(以上、三重)、東北木材(株)(秋田)、金子製材(株)(埼玉)、熊本モルター加工事業(協)(熊本)

- 【主催三団体会長特別】 協和木材(株)(福島)、院庄林業(株)久米工場、銘建工業(株)(以上、岡山)、オオコーチ(株)西村木材店(以上、三重)、(株)日田十条(大分)
- 【優良市場】 東京中央木材市場(株)(東京)、(株)東海木材相互市場大口市場(愛知)、丸宇木材市売(株)北浜市場(埼玉)、ウッドピア市売(協)(三重)、(株)伊万里木材市場(佐賀)
- 【全木連会長】 (株)山一木材(和歌山)、外山木材(株)今町工場(宮崎)、(株)佐藤製材所(宮城)、(株)佐藤林業製材工場(熊本)、久万広域森林組合久万事業所(愛媛)、佐伯広域森林組合宇目共販所(大分)、(有)東部産業本社工場(福岡)、(資)立山製材所製材工場、(株)佐藤製材所製材工場(以上、熊本)、中国木材(株)伊万里工場(佐賀)
- 【全市連会長】 (株)かつら木材商店(和歌山)、越井木材工業(株)関東工場(茨城)、セイキ林業(株)製材工場(岡山)、(株)東海木材相互市場大口工場(愛知)、(有)菊地製材所製材工場(岩手)、(株)ヤマサ製材工場(大分)、木脇産業(株)加工センター、持永木材(株)早鈴工場、(株)北條製材工場(以上、宮崎) 菊池木材(株)本社工場(愛媛)
- 【全責連会長】 坂本商店製材工場(奈良)、河合林産(株)製材工場(岡山)、東白川製材(協)(岐阜)、(株)一戸製材所製材工場(岩手)、八幡浜官材(協)製材工場、宇和国産材加工(協)(以上、愛媛)、(有)三和物産(熊本)、吉田産

業(資) 吉田製材工場(宮崎)、(株)佐藤製材所製材工場(大分)、富士大和森林組合国産材加工施設(佐賀)

【優良買方】 (株)大忠、(有)坂巻材木店(以上、埼玉)、(株)竹本商店(岡山)、逢坂建材(株)(岐阜)、コウヨウ(株)(三重)、(株)富建(長崎)

【記念講演会】 表彰式終了後、(株)シエルターの安達広幸取締役、「耐火構造による中・大規模木造建築物とJAS製材品の課題」と題して講演していただいた。安達氏は、COOLWOOD(木造耐火構造)、KES構法(接合金物工法)の技術開発等を担当され、公共建築物に用いる構造体(木造)において、全国の木材流通・生産インフラの整備、設計等、3D木材加工のためのBIM開発等に從事されている。講演会では、木造建築の変遷(法律の遷り変りと木造建築等)、木造耐火建築物の現在、(2時間耐火構造等)、南陽市新文化会館の事例、世界の大規模木造建築物及び日本における大規模木造建築物の課題等について語り、「木造建築を通して、都市(まち)に森をつくらう」と結んだ。

■平成26年度「もくアド講習会」

当連盟は、2月20～21日東京会場の木材・合板博物館(東京都江東区新木場)と同27日～28日大阪木材仲買会館(大阪市西区南堀江)で、平成26年度木材アドバイザー養成講習会を開催した。参加者は、当初申込みよりやや減少し81名(東京42名、大阪39名)。

受講者及び講師陣、当連盟関係者の協力により、ほぼ予定どおり実施できた。5年目を迎え今年は、より実践的な知識を身につけて頂くため、昨年に引き続き、「建築が木材に期待すること」を加えて実施した。

木材・合板博物館での講習会は5年目、一昨年完成した大阪木材仲買会館での開催で、わざわざこれを見るために、大阪会場を選んだ参加者もあった。関係各位のご協力で心より感謝申し上げます。

【東京会場】

東京会場では、当連盟の市川会長が挨拶、講習会については、「この講習会は、木材や木材利用の助言・指導ができる人材を養成し、木材アドバイザーとして認定し、その方々の活動により、広く森林や木材、木造建築の良さを建築関係者や一般国民の皆さんに伝えて頂こうと、全日本木材市場連盟がスタートさせた」と話し、また「企画運営は、森林・林業、木材、建築などの分野で、それぞれ第一人者の先生方のご協力をいただいている、引き続き制度の一層の充実等に向け努力したい」と結んだ。続いて、木材・木材合板博物館の岡野健・館長は、これまでの長い御経験の中で、多くの一般の方から、木材について幅広い電話相談等を受けたことを紹介。「講習会で、きちんとした木材の知識を身につければ、皆さんもこうした問い合わせに、筋道をたてて答えを導き出すことができるようになる。しっかりと勉強して頂きたい」と語った。

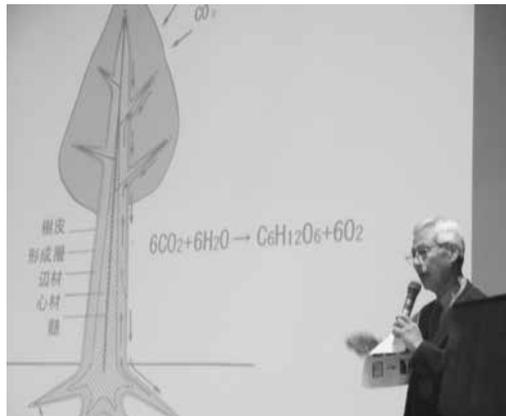
このあと、事務局が全市連の活動や木材アドバイザー養成の仕組み等について紹介し、開校式を終えた。

【大阪会場】

大阪会場では、全市連の花尻忠夫副会長（近畿支部長、大阪木材相互市場社長）は、主催者挨拶の中で、「日本は、世界第2位の森林国であり、豊かな森林資源は有効活用しなければならぬ。国民の8割は、木造住宅を希望しているが、一般的に木材は高いという認識が広がっている。暮れからの値戻しはあるが、現在の木材価格を昭和55年に比べれば65%値下がりしており、持続可能な森林経営ができない状況にある。本日も参加頂いている皆さんは、こうした現状を国民の皆さんに広く伝えて頂き、国産材が多量に使用されるよう取り組みを進めて頂きたい」と話した。

続いて、大阪木材仲買協同組合の雪本政通理事長（全買連会長）に歓迎の挨拶を頂き、事務局より受講に当たってのお願いをして開校式を終えた。

【写真で見る講習会の模様】



岡野健先生



山田壽夫講師



森田靖先生

講師と教科名は、早稲田大学の森川靖教授「地球環境保全と森林・木材利用」、日本治山治水協会の山田壽夫専務理事「元林野庁木材課長」木材需給の動向と木材産業、木材ライターの赤堀楠雄氏「日本林業の動向と課題」、木材・合板博物館の岡野健館長（東京大学名誉教授）「木材の構造と性質」、京大大学生存圏研



栗田紀之先生



赤堀楠雄講師

究所の杉山淳司教授「ハンドレンズによる木材の見分け方」、東京都市大学の橋好光教授「木造住宅・木造建築の知識と科学」、A/EWORKS 栗田紀之理事「木材に対する建築側の期待」。

昨年からは、2日間の日程は、初日を夜7時20分までの講義とした。受講者にとり、ご苦労の多い二日間となった。

第6回「新たな木材利用」事例発表会を開催

「木材利用」の意義と効果の見える化」 木材会館ホール（東京）
全木連（吉条長明会長）と木材利用推



大橋好光先生



杉山淳司先生



大阪会場：大阪木材仲買会館



講義の様子

進協議会は12日（木）、「木材利用」の意義と効果の見える化」をテーマに木材会館（東京）・新木場で第6回新たな木材利用事例発表会を開催し、約200名が参加した。吉条会長は、「この発表会は、全国の先駆的な取り組みを発表して

頂き、木材の使い方、施工・設計、新製品開発などを参考にし、大いに木材利用を促進したい。6回目は今年、①木材利用の意義とその見える化及び②木材を使った街づくり事例とその評価について発表して頂く」と挨拶した。続いて、来賓として出席した林野庁木下喜博林業・木材産業情報分析官は「地域創生という政策課題に向け木材の新たな需要拡大が重要で、木質バイオマス、公共建築物木造化、内装木質化、輸出等への取組がなされているが、CLT、耐火についての技術開発・製品開発については、中高層建築物への期待ができる。国土交通省とも連携して基準の整備、モデル施設建築によるノウハウ、生産体制整備などロードマップを作成して取り組んでいる」旨の挨拶があった。

第1部では、木材利用の意義とその見える化として、東海大学杉本洋文教授による「中・大規模建築物を木造化する科学的根拠とその評価」、（独）森林総合研究所木口実研究コーディネータによる「木の街づくり事例とその効果」について発表された。第2部では、木材を使った街づくり事例とその評価として、埼玉大学浅田茂裕教授による「学校の木質化と児童・生徒・先生の意識」、筑波大学安梅勲江教授による「木育と木材利用のエンパワメント効果・生涯発達における科学的根拠」、秋田県山吉山吉明木材利用推進班長による「秋田県の木造・木質化事例の効果と新たな流れ」、港区早藤潔地球温暖化対策担当係長による「みなとモデルによる都市開発事例の状況と効果」がそれぞれ発表された。

雑記帳

▽NHK「クローズアップ現代」で、急増 バイオマス発電が始まる資源争奪戦が放送された。木質バイオマスエネルギー利用推進協議会熊崎実会長も出演。北海道下川町の取り組み事例紹介、製紙会社の原料入荷の逼迫、価格の上昇もとりあげられ、5千KW以上の大規模発電所優遇の制度設定の問題点も指摘された。ドイツの事例として、大規模バイオマス発電所建設が進み、原料不足となり、制度の見直しが行われ、小規模発電所への助成にシフトし、今では9割が中小施設となったという。「木質バイオマスの持続的供給のためには、伐採、利用、更新（新植）が循環することが重要、良材は建築用に、次に合板等に利用し、他に利用できないものをバイオマスとして利用するのが基本。森林の伐採計画と木質バイオマス発電施設計画、買電認定とが整合性がとれていないと問題が生ずる。大規模施設は安定的な原料確保なリスクも大きい。熱利用も組み合わせ、エネルギー効率を上げる中小規模の木質バイオマス発電施設の利点」も熊崎会長から紹介され、興味深い番組だった。人口減少という事態の中、中央集中だけでなく、地域において、「定住・定着を図りながら、地域の活性化に貢献する」といった地域創生の理念とも相通するものがあるのではないかと感じた。英国の経済学者シューマツハは、「Small is Beautiful」を説いたが、「大きいことはいいことだ」というこれまでの流れのひずみを補正する時期にきているのかもしれない。